

全国さんま棒受網地域漁業復興プロジェクト（大船渡地区Ⅳ）

事業実施者：大船渡市漁業協同組合 使用船舶名：第二十八善寶丸（19トン、さんま棒受網漁業兼イサダ曳網漁業）

支援期間：平成28年8月10日～令和元年8月9日

（取組の内容）

●同一船型船の建造

共通設計図の採用、機関機器等の共同発注・共同購入による建造コストの低減化。

●省エネ・省コスト化型漁船の導入

省エネ船型、大口徑固定ピッチプロペラ、低燃費型主機関及びLED漁灯の採用等による燃油使用量の削減。

●労働環境の改善・安全性の確保

空調設備の導入や寝台の拡張による居住環境の改善

全漁灯LED化による球切れ交換等危険な高所・洋上作業の軽減、軽労化設備の増設等。



漁灯のオールLED化



氷揚げ機

（事業の成果）

●燃油使用量は、第1事業年度を除き（1年目：139.4kl、2年目：176.2kl、3年目：178.6kl、平均：164.7kl）復興計画の目標値（164.2kl）を上回ったものの、3年平均ではほぼ計画通りの数値となり一定の成果が得られた。

●操業主体であるさんま棒受網漁業の水揚数量及び水揚金額（3年平均：413トン、86百万円）は計画（880トン、96百万円）を下回った。一方、兼業であるイサダ曳網漁業の水揚数量及び水揚金額（3年平均：186トン、17百万円）は計画数量（207トン）は下回ったものの、計画金額（7百万円）は大幅に上回った。

●償却前利益（3年平均、14百万円）は、復興計画の目標値（同16百万円）をわずかに下回ったが、次世代船建造が見通せるものとなった。

●省力機器（氷揚げ機等）の導入や居住環境の改善等による労働環境の改善が乗組員の意欲向上へつながったほか、地元魚市場への積極的な水揚により地域の活性化に貢献した。